



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



「関心・意欲・態度」の学力と評価

社会科の評価で言う「関心・意欲・態度」とは、社会科の学習を通じて形成した基本的な学力(「知識・理解」や「資料活用 of 技能」)をもとにして、形成される発展的な学力であると、先生は理解しています。

たとえば、商店街の花屋さんの店先に並べられている花について考えてみると、理科的には花の品種や花や茎や葉の構造や花の成長などが課題の対^{たい}象^{しょう}となるでしょう。美術的には色彩や形が描^{えが}く対象であり、国語的には「きれい。うつくしい。かわいい」などと言語で人の感情を表現する対象となり、それぞれの学問的な領域からアプローチ(接近・観察)する角度は変化します。

社会科では、なぜ花が売れるのか。花屋という商売がいつ頃から成り立つようになったのか。花の価格が高いのはいつか、安いのはいつか、それはなぜか？などと、その他の領域の学問(教科)とは全く異なる課題対象となります。

社会科的な意欲は、社会科的なとらえかたをしようとする「意欲」であり、「花屋」という「事実」を社会事象として理解しとらえようとする意識の強さと方向であるといえます。それは具体的には、すすんで自分の学習上の疑問点を調査したり、ノートにまとめるというような行動に現れたときに学力としての内容をもつと考えます。「関心」は、「花屋の花」をより具体的に社会科学的な研究対象としてとらえ、たとえば「花という商品の価格の決定要因」を考えたり、「花屋という商売の歴史」を調査したりする意識の傾向であると、先生は理解しています。

さらに「態度」は、いわゆる「授業態度」ではありません。社会事象の多くは、たいていの場合、何らかの意志決定あるいは価値判断を要求します。その意志決定や価値判断が、客観的・合理的で、かつ公正な過程を経て導^へき出すことができるかどうか大切なこととなります。そこでは「結論」は、評価の対象とはなりません。前提としている事実と「結論」に至る間の論理と事実の指摘が重要なポイントとなります。「花屋」の場合ですと、仮に「花屋」を「歴史的事実」とし

てとらえ、今後「花屋」という商売が成り立つのかどうか、あるいは発展するの^{ほうりやく}か^{かんたん}かどうかを判断し結論を出すというような「課題」に、自分の「結論」を考えなければなりません。そのような「事実」と、「結論」の間において、思考される方^{ほう}略^{りやく}(方法)が、社会科の評価における(社会科学的)「態度」であると、先生は考えています。

このように理解する「態度」は、結論を簡単に決めることができないような問題場面で、具体的に現れます。そこで、先生(倉橋)は、そのような問題場を設定して、君たちの意見を求める「作文」の問題を定期考査に出題することになっています。

少し？ 遅れましたが、

「律令制の農民の生活」

に関する君たちの意見です。

1 学期の期末考査の[問 ▼]で、「律令制の時代の庶民(農民)の生活と、今の君たちの生活とを比較して、自分の意見をまとめなさい。」と、君たちの律令制時代についての意見を聞きました。

採点基準は、加点法をとり、下記の各論点につき1点を加えることにしました。なお、満点は5点でした。

律令時代の事実として

- ① 当時の生産力が低かったこと。
- ② 6歳から口分田が与えられ、幼い子どもでも働かないと生きていけなかったこと。
- ③ 田植えは定着していたと考えられるが、農具などの未発達によりかなり厳しい農作業であったこと。
- ④ 税のうち、租よりも庸・調・雑徭・衛士・防人などのほうが農民を苦しめたこと。
- ⑤ 税以外でも、出挙によって稲が収奪(奪われること)されたこと。
- ⑥ 仏教などの知識は、支配階級に独占されていて、文化的にも社会階級の差があったこと。その他、律令時代の歴史的な事実を指摘していること。

現代社会の事実として

- ⑦ 現代の社会生活が、高度に発展した社会的分業によって支えられていること。
 - ⑧ 現代社会の生活が、当時の農民の努力と苦勞によって支えられ存在すること。
- (次につづく)



尼崎市立小園中学校 第2学年

社 会 科 通 信

な ん で や ね ん

発行責任者 倉橋 忠



No. 3 - 2 / 5

全体的な得点率はかなり高いものでした（平均 2. 2 5 点）。3 点以上の人が、半数以上を超えています。ただし、5 点満点を取れた人はいませんでした。

律令時代だけではないのですが、生産力の低い時代では、^{おきな}幼い子どもまでが働かないと、その社会の人々は生きていけなかったのが歴史的な事実です。ちなみに、民衆(庶民)の 1 2 歳未満の子どもが、労働から解放されるのは、わが国の場合では、昭和 20 年を過ぎないと無理だったのです。この「**社会的な生産力**」との関係で「**子どもの労働**」をとらえることができていた人はいませんでした。この点は、今後の歴史学習をするうえで十分に理解しておいてほしいことなので、授業だけでなく、この「**なんでやねん**」でも強調しておきます。

これからの定期考査でも、「意見」を求める問題を出題します。そこで、1 学期の期末考査で、君たちの今後の参考になればと思い、3 点以上の得点をした人の「**答案**」（全員分ではありません）を無修正^{むしゅうせい}で、紹介します。

ただし、これらの「**答案**」の中には、漢字の誤りや、内容的な誤りを含むものもありますので、「正しい答え」としては読まないでください。あくまでも、自分の意見を「社会的」に表現する方法の参考として読んでください。

友だちの「答案」から学ぼう

3 組 S. K. 昔は米もろくにとれないのに税をとられてそのうえ仕事にかりだされたりして、その間に田んぼは荒れて食べるものがなくなり、いろんなものをたべていた。それに僕らより小さい 5, 6 才のこどもが田んぼをたがやしたりしていたから字も読み書きできない人が多かった。でも今は、1 5 才ぐらいまでは、ぎむきょういくで学校にいけるということになっている。今僕がその時代に行ったら、のたれ死んでいると思う。

3 組 T. S. 昔の農民は、生きるためにひっしで食べ物をつくる。でも防人や衛士に田んぼをたがやす人をとられて食べ物もつくれない。6 才の子供が田んぼでたがやしても、祖に 3 % もとられ食べ物がほとんどなくなる。そして伝染病にかかったらすぐにあの世にいつてしまう。しかし今の人間は食べ物をつくる人たちだけが作り、

そして食べ物も金さえあればいつでもかえる。伝染病にかかってても病院へいけばなおしてもらえる。それが昔の農民と今の人のちがいだとぼくは思う。

3 組 A. M. 今は、遊びたい時に遊べて、勉強したい時は勉強ができる。仕事は親にまかせといたらいい。

でも、律令制の中の農民は親がはたらくだけでは生きていけず、子供まではたらないといけない。6 才ぐらいの時は、いちばん遊びたい時なのに、自分のため、家族のために、そんな自由はすてなければいけなかったと思う。昔は、子供まではたらいて命をつなげていたのに、いまでは、好ききらいで食べ物をすてたりしている。そんなことを思うと昔の人のど力はむだだと思ふ。これからは、見直して、生活しなければならないと思う。

3 組 S. A. 律令制の時代は 6 才から口分田ではたらくのが、当たりまえだったけど、今の時代では、想像のつかないことだと思ふ。6 才で田を耕すことができるというのは、すごいことだと思ふし、つらかったらと思う。もし、今の時代の人達が律令時代に生きるとしても、それは、できないと思ふ。今の時代は律令時代にあった、何かを忘れていると思ふ。（私もよくわからないけど。）今、お年よりの人達が若い人をけなす理由が、やっとなかったような気がした。私達の先祖がまちがいなく、6 才から働いていたと思ふと、私達みんなは、すごくなまけ者だと思ふし、考え方が甘いと思ふ。又、自分の先祖に感謝したい。この時代を勉強して、もっともっと、自分に厳しくしようと思つた。

3 組 M. I. このころの農民は、祖、庸、調とか、いろんな仕事があつて、すごい苦労したと思ふ。それだけじゃなくて、防人で北九州を守らないといけなかったし、平均じゅみょうは、4 0 さいぐらいだから、20、30 才あたりにすごい働いたんだなと思ふ。祖は、その村におさめればいいけど、庸とか調なんかは都まで持っていけないといけなし、防人なんて、北九州。今だったら新かん線で 3 時間でつくけど、この頃なんて、もちろん新かん線とかないから、だいぶ歩いたと思ふし、3 年間も家族とはなれて、さびしいやろなー。て思つた。今とくらべもんにならへんぐらいにきびしい世の中やつたと思ふ。このころはお米とか全々食べるもんがなくて、こまってる人とか死んでいく人とか、おつたと思ふと、なるべく食べ物をそまつにしたりキライな物をのこしたりしないようにしたい。

3 組 A. K. 律令制時代の農民の子供たちは、みんな 6 才ぐらいから働いていて、すごいと思つた。もし、今の時代の私たちがこの時代に行ったら、何カ月もしないうちに、が死してしまうと思ふ。子供だけじゃなくて、若い大人の人が行ってもそうだと思ふ。今の時代は、6 才になると勉強だけしていればいいといふかんじだけど、いざというときに、すごく困ると思ふ。だから、今のうちから少しでもそういうことを身につけておいたほうがいいと思ふ。昔の農民たちはほんとにがんばったから、今、私たちがこうしていられると思ふと、昔の人たちにすごく感謝したい。これからもそういう人たちの苦労を忘れずにいたいと思ふ。



No. 3 - 3 / 5

3組 T. K. 律令制の時代の農民は、6才から女の子でも生きるために田を耕さなくてはならない。私たちは食べ物があるし、国が豊かになってきているので、生きるために子供のころから働かなくてはならないなんてことはほとんどない。6才になると小学校に入学し、夏休みなどには家族や友達と旅行にいったり、楽しくあそべるが、律令時代の子供は食べ物をつくることでせいいっぱいだった。それに成年男子には、租だけではなく、調や庸を都へはこばなくてはならなかった。いつになったら、ゆっくり休める時がきたんだろうと思いました。農民は、衛士や防人として国を守っていた。天皇の力もあるかもしれないけれど、国をまもっていったのは農民たちだったんだろう。今みたいに国が豊かになったのも農民たちが、毎日毎日働いていたからなんだろうなと思いました。

3組 K. S. 当時の農民は、重い税にくるしんでいた。そのうちの1つ租は、実際には63%ほどしかとれなかったため、農民の生活はゆきづまっていた。しかし、3%の税をおさめなくてはならなかったため、農民たちは昆虫やけものを食べて必死に生きていた。しかし、今の私たちは、自分が今いきているのは、当時の農民が必死で命をつなげてきたからこそ、あるということを忘れており、それに私たちには義務教育という権利があるというのに、自らほうきしている。当時の農民の人たちには権利もなかった。しかし当時の農民の人たちはくろうして必死で、歴史をつみ上げてくれた。今の私たちが考えなければいけないのは、当時の農民にありがたみをもち、ほこりをもって生きていくことだと思う。

3組 H. S. 律令制のころは6才から口分田をあたえられてはたらかないといけなかったけれど私たちは「農業」という仕事をもつ人たちが米などをつくりはんばいされている。私たちはお金をだせばお米はかえるし毎日の主食になっている。
律令制のころは、6才まだ力もあまりみについていないころからはたらいて 毎日の主食はどんぐりなどでありお米は年に1回ぐらいだったようなので、私たちの生活にくらべてとてもまずしいくらいだとわかります。ふつう6才だったら私たちでは小学校にいった勉強するだけで働く（米をつくる）なんてとてもしんじられないことです。こうゆうことから私たちの生活と律令制の生活ではまったくちがうことがわかります。

3組 K. N. 6才で、テニスコートぐらいの田をもってというか、持たされて、私たちでいうとまだ6才なのに働いていかないと家族は生きていけないし、父親も仕事に出してしまうと、あとの男の子（子

供）が、父親がわりなんて、今の私たちにはぜったいにむりだなと思う。その上、凶作なんかで、米がないというか、家族が食べる分もないのに税を取られて、すごくなるしい生活なんだなと思う。私たちは「ピーマンきらい、にんじんきらい。」とってたべないけど、そのころの家では、にんじん1本でもありがたいのに、私たちは、そのころの苦労や苦しみを知らないから、こんなことが平気のできるんだと思う。父親も、生きて帰ってくるとはかぎらないのに、仕事にいつてくるなんて、もう死んでくるとわかっているのに、いくなんていやだっただろうと思った。

3組 A. H. まず、6歳ぐらいではたらいていたというのが信じられません。だって私達の6歳ぐらいといえば、親にあまえていて、なんでも親にしてもらっていたからです。つまり私達は親がいなくて何もできない子供だと思います。そんな子供が律令制の時代にたくさんいたら今、ここに日本人は一人もいなかったと思います。つまり今、ここに私がいられるのは、何百年も昔、私のそせんの小さな子供がいっしょうけんめいはたらいてくれたおかげだと思います。だから私も、この時代からいっしょうけんめいにはたらいて、私まで命をつなげてくれた人たちの努力をむだにしないで、私の子そんまでつなげられるようにしたいです。

4組 H. T. 農民の生活はきつすぎて、たえていけない、食べ物もろくにとらず、毎日、働かされ米がきょう作でも、取りあげられる、なぜみんなで反げきしないのかと思う。
今の時代 土間なんてみたこともないのに、そんな所でふともなしで、家はつぶれそうになっている所でよくいきていけるなあぼくならすぐに死ぬと思う。律令時代のえらい人が全々はたらかないのがいけないでも、人間は、人の上に立つのがすきだからこんな、みぶんさべつをするんだ。これならまだ原子時代のほうが農民はましだと思う今のぼくらは、すごくゆうふくだ。

4組 T. M. 律令制のころの農民はいくら口分田をもらっていても、庸や調、雑徭などで都に行っていて、田んぼのしごとをあまりできなくて、とれるこめが、一年分のたべるりょうより少ないのに、それなのにまだ租があって、毎日たべるたべものにもこまっていた。それと6さいの子も口分田で働いていることにはおどろいた。それにくらべて、今だったら、毎日たべるごはんにもこまらず、親にめんどうをみてもらって、6さいからはたらくこともなくて、らくなのに、

4組 A. I. 律令制の時代の人には冬でも寒いかわこうをして すぐに かぜをひいてしまう 子供だって、冬に生まれたら すぐに死んでしまうし、生まれても6さいから働かなければならない時代、私は、冬にはこたつに入り、夏にはクーラーをつけ そんなことをしているだけでも十分なのに、「勉強したくない」と いつも言ってる 昔の人に勉強したくてもできない人がいたことを考えると とても悪い気がします。こんな きびしい時代を生きぬいた私たちの祖先の人は、農民でも、とても、えらい人だと思います。



尼崎市立小園中学校 第2学年

社 会 科 通 信

な ん で や ね ん

発行責任者 倉橋 忠



No. 3 - 4 / 5

4 組 Y. K. 律令制の時代の農民と今の私たちの生活を比べてみると、全くちがうと思います。

今は、お金を持ってどこかにいけば食べものなんていくらでも買えるけど、律令制の時代の農民は、いくら働いても、租税などで自分達の食べ物もほとんどなくなってしまいうからです。それに、班田収授の法などで 6 歳から口分田をわたされるなんて すごくムリなことだと思います。でも、この時代では、こうしないと生きていけなかったのだと思います。

今では仕事をするのは ほとんどが大人で、田を耕したりするのも ほとんどが機械です。このころの農民は本当にたいへんだったと思います。

4 組 Y. K. 昔の人たちは、けして、ゆうふくではなかった。たぶん、まずしかったと思う。租などの重い負担に苦しんで逃亡して、浮浪人になる人もいっぱいいるくらいだから、とても、苦しくて、つらかったんだなって思う。

今の私たちなんか、昔の人にくらべたら、ぜいたくすぎるし、昔の人に悪い。たとえば、好ききらいはあるし、きらいなものはたべないで、すててしまう、そんなんじゃとても昔の人に悪くて、やっていけないです。これからは、そういう人のことをおもって、行動していきたい。

4 組 A. S. この時代の農民達は、租・調・庸・兵役などの重い負担もかかるし、租で納める米もあって、お米が食べられず、ひえやあわを食べて暮らしていた。しかし、今、私達の時代の農民は、税による負担も、この時代の人に比べるとないと思う。去年は不作だったけれど、それでも私達は輸入米でお米はいつも食べていた。この時代の子供達も、おさない頃から働いていた。しかし、私達は学校である程度勉強してから、働いている。

この時代の農民とその子供達のことを考えると、今、私達の時代は、とても幸せだと思う。

4 組 S. S. 律令制の時代の農民立ちは 6 歳から口分田を与えられ、小さい時から重い税になやんでいた。それに比べ、今、私達の時代は同じ 6 歳といえば、働くことをしらない子供で 私達も重い税の苦しみを知らない。現在ではそれがあたりまえになっている。でも、律令制の時代の子供は 6 歳で働くことがあたりまえになっていた。この事から、私達の時代はとても幸福な時代だと思う。

今の時代の人達がそのまま律令制の時代にいたとすると、すぐに弱音をはいて死んでいたと思う。今の時代の人に比べて、律令

制の時代の人には強かったと思う。子供が働く事の導さや、重い税の苦しみも知らないというのがあたりまえのこの世の中はとてもゆう福な時代だと重う。

5 組 T. K. 律令制の時代というのは、小さいころから田を与えられて、毎日働きづめの生活だったと思う。税も非常に重く苦しいものだったようです。冬でもそでのないふくを着とてもきびしい環境の中での生活だったと思う。税は租だけでなく調や庸、それに衛士や防人といった兵役まであったというのがおどろいた。

今はぼくたちの年代になってもほとんどの人が働かないだけでなく、食料も自由に手に入り、あたたかい布団の中で寝ていられる。こんな歴史を習っていくにつれて、ぼくたちはとてもいいくらしをしているんだなあと思います。

5 組 Y. H. 律令制による公地公民制によって口分田などで租、調、庸などの税の負担がある。つまり、今とくらべて この時代の人（農民）は まず、家は堅穴住居で土間へそのまま寝る、冬はたぶん寒い、服もうすっぺらいもんで、これも冬寒い、その上、租以外の税の負担がきつく、都まで持っていかなければならないということは、たぶん持っていくのは男の人だから、家にいない日もあって 衛士・防人にも行かなければならないし、小さい子供しかいないところのお父さんは、やたらしんどかったと思う、そう上また、大仏作りしろ 言われたら、子供にもたべさせにやらんし、地獄みたいにしんどいと思う。それに比べて今は楽だ。（子供も） 田んぼたがやさんでいいから。

5 組 C. A. 6 歳にして口分田が与えられ、租・調・庸の税を課せられたり、雑徭・防人の兵につかされたり、という厳しい世界で、しかも、凶作の時に稲を貸しつけて 5 割の利息をとって国司たちは、お金もうけをして、農民たちはただ働いて何の自由もない時代にもし、私が生きていたら、昔の人達みたいに、逃げると思います。こんな時代を考えると、私達の今の生活は、なんて幸せなんだろうと思います。税といっても、今はお金になったから、兵にもならなくてすむし、調・庸を都まで運ばなくていいから、私たちの祖先に感謝をしなければなりません。そんな苦しい生活をして、今のとても便利な幸せな生活ができたからです。

5 組 E. I. 律令政治では 6 才になると口分田が与えられる。与えられるということは働かないといけない。私が 6 才というと、小学校 1 年のころで、働くななんて考えたことなかった。でも、この時代のこどもは働きたくなくても、働かされたんだろう。きっと、今の時代の子どもはすぐどこかに逃げたりするんだろう。

しかも、父親が 1 年間のうちほとんど家に居ない。衛士にも行かされるし、防人にも行かされる。調や庸を都にもって行かされるし。今の時代で言えば、父親が単身フニンしているみたいなんだろう。

もし、今、律令国家の生活をしてみろって言われたら、車も機械もあるし、別に苦にならないと思う。でも、タイム・スリップしてやってこいって言われたら、やっぱ嫌だ。そっこう、寺社に行くと思う。その嫌のを昔の人はたえぬいてくれた。



尼崎市立小園中学校 第2学年

社 会 科 通 信

なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No. 3 - 5 / 5

5 組 T. K. 今の私達は、立派な家に住んでいて、「おなかですいたなあ。」と思って冷蔵庫を開けると、必ず何か食べるものが入っているし、炊飯器にも、ホカホカのご飯が入っている。エアコンも整っていて、寒ければ「ピッ」とボタン1つで、快適な生活がくれる。税金だって、そんなむちゃくちゃな額は要求されないし… 。しかし、この時代の農民の生活は、今の生活とはまったく反対で、食料はないし、家もたて穴住居で、冬は、こごえる思いがしたと思うし、たくさんの税をおさめなければならないし、すごく大変だったと思う。

でも、このころの農民は、私たちの先祖であるから、このころの農民の生活があるから、今の私達の生活があるんだと思う。だから、私達は、食べる物を大事にして、このころの農民に感謝しなければいけないと思う。

5 組 Y. S. 律令時代の頃は6歳で 口分田が与えられ 働いていた。今の6歳の子供に田を与え、働かせればすぐに、逃げるだろう。私もそうするだろう。今は機械があって田をたがやすのも楽だけど昔の人たちは機械もなく力だけで頑張ってきたのだろう。でもその昔の人々のおかげで 今 私達は お米の作り方などを知っている。今 ごはんを食べれるというのは 昔の人たちのおかげなんだ。と思いました。

5 組 M. S. 今の自分の生活は、すごく豊かで、子どものころでも お父さんやお母さんが働いているので、子どもは働かなくてもいいけど、昔は、6歳から口分田をあたえられ、自分でたがやして、自分でそだてて、すごくたいへんだったと思いました。それと、今の自分は、すごくらくをしているのに 昔の子たちは、遊びもせず、田をたがやして いっしょうけんめいに働いていた。それが、今の私たちと昔の子とでは、今の私たちよりも昔の農民の子どものほうが何十倍も、苦勞していると思った。

5 組 N. F. 私は今のこの時代にうまれてこれて本当に良かったと思う。私がもし、律令制の時代にうまれてたら6歳から働かなくてはならなかったのだ。そんなことを考えるとゾッとする。私たちは家に帰るとゴロゴロしている。働くなんてことしたことない。するとしたらちょっとしたお手伝いぐらいだ。私の母は長女です。母の両親が田んぼに働きに行ってたので、家の仕事は、全部母がやっていたそうです。それがあたりまえだったとか…。今の私たちはどうですか？ 親に食べさせてもらっているくせに家の手伝いもせず親に反ばつさえます。

私は、今までの自分をみなおし、少しずつ家の手伝いなどをしていきたいと思いました。

5 組 E. F. 律令制の時代はみぶんの差がはげしかった 貴族は樂をし、楽しむことばかりだとしたら逆に農民は小さい子から年よりまではたらかせている それにくらべて、現在私達は自分達の親が働いてくれて、小さい私達は昔の農民とは逆に1日中あそんでいるようなものだ

律令制の時代伝染病がはやった その時代は1人が伝染病になればそれが大くに広まるようになる そして、最後は死を待つだけ その時代は災害があった じしんや台風それは 今の時代じしんや台風ぐらいじゃ家は（まあこわれることもある）こわれない。でもその時代は家はがんじょうじゃないからすぐこわれてしまった 今の時代は幸せな方だと思う

5 組 Y. F. 今の私達の生活は、いくら米不足といっても、お米はあるし食べ物だってお金があればいくらだって買える。 でも、当時の人達（農民）は、自分で自分達の食べられるものを作っていかなくっちゃいけない。お米だってそんなに取れないだろう。それなのにその3%を祖として朝廷に納めなくちゃいけないなんて、伝染病だってあるのに、食べ物がなく弱っていたらすぐ伝染病にやられてしまうだろう。でも、現在は伝染病もなく、お米も一応取れている、税だって、今はお金だし…。昔と今の生活との違いは はるかに今の方がいい。でも昔の人達が苦勞した時代があるから、こんなにも良い今があるんだし…。昔の人が、がんばったから私達がいる。とてもありがたいことだ。もし、現在がそんな税をお米で取ることになったら私は死んでしまうだろう…。

5 組 A. M. 6才の子どもに 田んぼをわたして たがやさせるなんて今の6才の子どもでは ぜったいにできないと思う 今ならまだ機械があるし だいぶ畑仕事が楽になっているけど 機械もないし やっぱり全部手しごとでやってたと思うし、苦ろうして子どもを産んでも 生きるか死ぬかわからないから 6才までやっとそだったら畑しごとなんてやっぱり 母親も父親も子供もかわいそう この時代ではふつうかもしれないけど 今ではかんがえられないことを この時代の人はやっててすごいと思った

5 組 Y. Y. 律令制の時代の庶民と現在の私達を比較してみて、私達は食べ物をそまつにしたり 紙飛行機をとぼしたり、そんなむだなことばかりだなと思いました。今の私がその時代にいても とてもじゃないけれど やっていけないなと思います。その時代をのりこえた人々はとてもすごいなと思いました。あわ、ひえなど鳥のえさなどになっている物をたべていたのだときいて 干飯とどちらがおいしかったのだろうと思いました。

農民の歌のがのっている「貧窮問答歌」をみて もうほとんど農民が「どうしようもないのか」などといってあきらめているようでした。

今とちがってきびしい時代だ、私達の祖先はやはり一番農民が多いのだろう。こんな、不自由のない時代にうまれたのだから もっとむだづかいの事をかんがえねばと思いました。